

# 尊光寺報

第129号  
令和2年6月

徳島県阿波市市場  
町大野島字天神41  
尊光寺

## 新型コロナウイルスの禍

昨年末に中国湖北省武漢市で発症したとされる新型コロナウイルス感染症はまたたく間に世界へと広がり、日本でも多くの方が感染しました。現在は終息へ向かっていると考えたいのですが南半球では今になって感染が拡大しています。第二波・第三波の感染拡大に注意との報道がなされるなど、まだまだ安心のできない状況が続いています。不安な状況にあつても医療や福祉、物流など様々な現場で活躍なさっている皆さまに心から大きな感謝と敬意を表します。またコロナによる外出自粛や経済活動の縮小によって多くの方々が今困難な中に置かれています。心よりお見舞い申し上げますとともに、早期の終息を願うばかりであります。

## 諸行事の縮小や延期

このような状況によって、お寺でも様々な行事が縮小や延期となりました。まず、5月1日の宗祖親鸞聖人降誕会法要ならびに門信徒総会は、総会と会食を中止し法要のみ短縮型にて行いました。また、6月6日に予定しておりました、副住職の仏前結婚式を来年3月に延期。6月30日予定の徳島仏教婦人会連盟総会ならびに門信徒研修会も来年に延期。7月6日、7日に予定の本山本願寺への団体参拝も今は見送ることとなりました。

ご門徒の皆さまの法事も延期や縮小・中止を余儀なくされた方が多くいらっしゃいます。中にはお葬儀のお別れも人数を制限されたりゆとりが無い中で行わざるをえなくなつた話も伺いました。

「南無阿彌陀仏」のお念仏は、「必ず救う我にまかせよ、我が名を称えよ、必ず浄土へ生まれさせて仏にならせよう」との阿彌陀如来からの喚び声です。お念仏に出遇つて歩む人生は阿彌陀如来という仏が一緒してくださる人生であり、念仏に抱かれて浄土へ生まれ行く人生であります。先立つた方々は仏となつて、私が出遇つたお念仏に残っていた者たちも出遇くれよと仏縁を恵んでくださいます。これがご法事の大事な心でありましょう。遅れながらも、ともにお念仏が喜べる時期になったらば、ご一緒に手を合せて参りましょう。仏さまは時期が遅れようとも、規模が小さくならうとも怒つたりはいたしません。ともに悲しみ、ともに喜んでくださる仏さまです。私たちがこの状況もご存知でいらつしやるでしょう。先立つた方を通してお念仏に会わせていただきます。

## お寺のYouTube(ユー・チューブ)参拝

多くの方が一同に集まらない状況に、どのような工夫がなされているでしょうか。とあるご法事では、ご実家族と離れて暮らす子どもさん家族と、携帯電話アプリのLINE(ライン)によるビデオ通話機能でつなぎ、離れた家族と一緒に出勤めを行うことができました。他の寺では、ビデオ通話機能のある携帯電話やパソコンを用いて本堂と各家庭をつなぎ法事を行った事例など、様々に工夫して仏事を行っていることを伺いました。

尊光寺でも動画配信サイトYouTube(ユーチューブ)にチャンネルを開設いたしました。5月1日の降誕会法要での副住職法話や正信偈の読経、日常の読経の様子を載せておきますので、どうぞスマートフォンやパソコン、インターネットに繋がっているテレビから、御覧頂きチャンネル登録してください。幸いです。また尊光寺のホームページにも同じ正信偈の動画を載せてあります。

## 「尊光寺若坊主ちゃんねる」

インターネット(YouTube)で「尊光寺若坊主ちゃんねる」を検索。または左のQRコードを読み取りアクセス下さい。

## 尊光寺若坊主ちゃんねる



尊光寺  
正信偈

和讃と御文章(聖人一流章)

新型コロナウイルスによる混乱が収まりましたら、みんなで「正信偈」をお勤めいたしましょう。それまでの練習の参考にお念仏のおともに活用下さい。  
また、遠隔地などお寺に足を運ぶのが困難な状況にある方々のご縁の一つになれば有り難いことでもあります。

## 法要・行事のご案内

コロナウイルスの影響により延期になった行事もあります。収まりましたら皆さまのお参りをお待ちしております。

### ◎ 徳島仏教婦人会連盟総会ならびに研修会

※【6月30日】10時半より午後3時まで、あわぎんホールにて予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を来年に延期します。

### ◎ 本山参拝旅行のご案内

※【日帰組】7月6日、大谷本願寺・西本願寺・二条城、【一泊組】7月6～7日、大谷本願寺・西本願寺・長良川温泉・鶴飼観光・名古屋城・徳川園を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催を来年に延期いたします。

あわせて、団体での本山(大谷)への納骨、法名授与なども延期となりますが、個別に納骨や法名を希望の方はご相談ください。

### ◎ 盂蘭盆会法要

【8月15日】夕方6時より

※個別の初盆法要はお寺までご依頼ください。過去帳・お位牌をお持ちいただければお寺の本堂でもお勤めできます。

### ◎ 秋の彼岸会永代経法要

【9月22日・23日】両日とも午後1時より

9月23日は仏教婦人会による養護老人ホームお接待です。準備お手伝いいただける方は朝9時頃よりお願いいたします。

### 【法話講師】赤井智頭師

(本願寺派布教使・輔教・龍谷大学講師・尼崎市善教寺) 副住職の尊敬する先輩僧侶の一人です。分かりやすく心豊かになるお話をさせていただきますので、どうぞお一人でも多くのお方の参拝をお待ちしております。

お彼岸の時期は太陽が真西に沈みます。西方に、先立つた方々が生まれ往かれた極楽浄土を思い、私たちも同じようにナモアマミダブツの念仏に出遇い、同じ浄土へ必ず生まれぬことを聞かせていただきます。



貪愛瞋憎之雲霧

常覆真信心天  
譬如日光覆雲霧  
雲霧之下明無闇

【訓読】 貪愛・瞋憎の雲霧、つねに真信心の天に覆へり。  
たとえば日光の雲霧に覆はるれども、雲霧の下あきらかにして闇なきがごとし。

【現代語訳】(阿弥陀仏の光明はいつも私たちを照れ取つてお護りくださる。すでに無明の闇は晴れても、)貪りや怒りの雲や霧は、いつもまことの信心の空をおおっている。しかし、たとえば日光が雲や霧にさえぎられても、その下は明るくて闇がないのと同じである。

今回も前回に続き、ナモアミダブツに出遇っているのだけれど、貪りや怒りの心はわき上がるのですが、という部分です。「貪愛」とは、どこまでも際限のない欲望、愛着する心を行い、「瞋憎」とは、腹を立て怒り憎む心をいいます。自分の心にかなうものには執着し、自分の心になわなないものには嫌悪する。なんとも身勝手な自己中心的な心のありようではありませんか。このような私私と思う心を我執と言ったりもいたします。

例えば、日々暮らしを同じくする家族だからこそ、ささいな行動にイライラしてしまったり思い悩むことがあるでしょう。洗い物を頼んだのに少し汚れが残っている、洗濯物を取り込んでくれたけれど畳み方が気に入らない。どうして同じ間違いを繰り返すのか…。これらはどれも、私の家族、私の旦那であり、私の子どもであるからこそ思いを起こしてしまします。これが「私の」ではなく、テレビで見かけた「他人の」であつたらどうでしょうか。「隣の」であつたらどうでしょうか。イライラすることも、思い悩むこともなくなりません。私たちは、私の旦那だから、私の妻だから、私の子どもだから、「私の」というものを見方をし、私のものであるから私の思うようになるのではないかと期待を押しつけて世の中を見ているのです。私の妻(旦那)や子どもだから分かつてくれているはずだ、うまくやってくれるはずだ。うまくいった時は「さすが私の…」、うまくいかなかった時は「なんで私の…なの」と。どちらも「私の」という思いに振り回されています。お釈迦様は、全てのものごととは様々な因と縁によつて仮に成り立っているものであつて「私の」思う様に世の中は成り立っていないと示されました。様々な条件が重なりたまたま私の家族として成り立っているにもかかわらず、いつの間にか、「私の」という思いが顔を出し、

「私の思うような家族であるはずだ」と色眼鏡をかけ固定化して見えています。これが煩惱の仕業なのです。「私の」という思いが取れた時、そこには、あるがままにそのままに本當の姿が見えてくるのでしょうか。これはお釈迦様のおつしやる煩惱のない穏やかなものの方で、なかなか、まねのできるものではないと思います。しかしながら、その意味するところは、「お陰様」という言葉で私たちもよく使っています。「お陰様」とは様々な因と縁によつて私の前にこのような結果となつて現れてくれている、決して私だけの手柄ではないという言葉でありましよう。私たちは、目に見える事に対しては口からお礼を申しますが、それだけでは「おもて様」です。私のあずかり知らない様々なご縁にまで感謝し穏やかに生きていく言葉が「お陰様」という言葉ではないでしょうか。

さて、話を「正信偈」に戻しますが、仏さまのご信心をいただくと言ふことは、この「私の…」という心がなくなることであります。私たちはこの命終わる瞬間まで煩惱と付き合つていかななくてはなりません。念仏を称えだしたから、お寺に参りだしたからといつて急に立派な人間になるということはありません。何か宗教を信仰しているから私は立派な人間になつたんだと自分で思うのであれば、それはずいぶん危ういことです。いつの間にか「私は…」と思ひ上がる心がわき上がつてきていることになりましよう。

阿弥陀如来は、煩惱まみれのこの私に、「必ず救う我にまかせよ、我が名を称えよ、必ず浄土に生まれさせよう」とご一緒して下さつています。お寺に参つて阿弥陀さまのお話を聞くと言うことは、思ひ上がつていた私心を知らされることであり、同時に、必ずこの私を救うと誓つた阿弥陀如来のお慈悲に出遇い喜ぶことでありましよう。

「貪愛」や「瞋憎」の雲霧に私の心は覆われているけれども、それでも私を照らす仏がいらつしやいます。ナモアミダブツの声となつて私とご一緒して下さつていらっしゃる仏がいらつしやいます。その仏心を知らせていただきたならば、もはや煩惱の闇は真つ暗闇ではないはずで、煩惱に振り回されながらも、この人生はただ死んでゆくのではない、確かに浄土に生まれて仏になる人生を阿弥陀さまと一緒に歩んでいくのです。

副住職、結婚を仏前に奉告

妻は徐々に徳島化

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、6月6日に予定していた仏前結婚式は来年に延期を余儀なくされましたが、二人は新



生活をなんとかスタートさせることができました。婚礼の前撮りに合わせて本堂にて仏祖に手を合せ、結婚を報告いたしました。

「徳島のニュースをインターネットで検索してないのに、最近やたらと、ヤフーニュース(インターネットニュース)のトップに徳島が出てきます。徳島県人になつたからでしょうか?」最近、妻がつぶやいた一言です。

副住職担当、徳島新聞カルチャー教室の「案内」

各講座、受講生募集中

■ 仏教講座「御文章(ごぶんしよう)」

「聖人一流の」。浄土真宗中興の祖、蓮如上人が門信徒へ宛てた手紙が『御文章』です。宗祖、親鸞聖人の念仏の教えをやさしく説かれた『御文章』を、原文に沿つて読み解き、仏教とは何か、念仏とは何か、一緒に学んでまいりましよう。

● 毎月第3金曜日 10時、11時半 月額2500円(税別)

【教室・申込先】徳島新聞カルチャーセンター徳島本校

徳島市川内町平石若宮92-4

TEL 088-665-8500

■ 親鸞聖人と『歎異抄(たんにしよう)』

「悪人こそが救われる!」『歎異抄』には昔から多くの人々の心をひきつけてやまない言葉がまつています。人間らしい矛盾を抱えながら生き抜かれた親鸞聖人の言葉を丁寧読み解きあじわつてまいりましよう。

● 毎月第2月曜日 13時半、15時 月額2500円(税別)

【教室・申込先】教室は、阿波おどり会館内

申込は、徳島新聞カルチャーセンターさごう校

徳島市寺島本町西1-5さごう徳島店9階

TEL 088-611-3335

令和2年 年忌表

令和2年の法事と亡くなった年

- 1周忌 平成31・令和元(2019)年
- 3回忌 平成30(2018)年
- 7回忌 平成26(2014)年
- 13回忌 平成20(2008)年
- 17回忌 平成16(2004)年
- 25回忌 平成 8(1996)年
- 33回忌 昭和63(1988)年
- 50回忌 昭和46(1971)年
- 61回忌 昭和35(1960)年
- 100回忌 大正10(1921)年
- 150回忌 明治 4(1871)年
- 200回忌 文政 4(1821)年
- 250回忌 明和 8(1771)年
- 300回忌 享保 6(1721)年

過去帳やお位牌をご覧ください。